

平成 25 年度大学連携による新たな教育プログラム開発・実施事業(広島県補助事業)

「国際経営を理解する人材の育成と備後企業の取り組み」

11月9日から11月30日までに第9回から第14回までの講義を実施しました。その内容についてご報告します。

第9回は「海外現地経営」というテーマの下で梅野巨利兵庫県立大学教授から、本社・子会社関係の理論的整理、海外子会社自立化の概念、事例1 マンダム・インドネシア、事例2 新田ゼラチン・インドア、最後に子会社自立化の条件というテーマでディスカッションが行われました。



梅野巨利兵庫県立大学教授による講義の様様

第10回は、リョービ(株)中村憲文部長より、「リョービの海外事業展開について」と題するケーススタディが行われました。主な内容としては、会社概要、海外事業展開、ダイカスト事業の海外展開、人事部の海外対応でした。下は講義風景です。



リョービ(株)中村憲文部長

第 11 回は、「中小企業の海外進出、進出人材に求められる要件」というテーマで、中沢孝夫福井県立大学教授による講義が行われました。主な内容は以下のようなものです。

- 1 グローバル化の波を考える。1960 年代と 70 年代。繊維から家電。アジア中心。コストダウン型。
- 2 1980 年代は北米へ。自動車メーカーなど大企業(セットメーカー)と、その関連するティア 1(一次協力メーカー)中心。アセアン諸国が輸入代替から直接投資呼び込みに政策転換。
- 3 1990 年ころからティア 2 がアメリカへ進出。及び、中小企業がアセアンに進出。バブルの人手不足とシンガポールやマレーシアなどが積極誘致。バイクや自動車の部品の内部調達率(2000 年に廃止)の目標始まる。
- 4 1994 年から 95 年にかけて、タイを含めて中小企業の進出始まる。
- 5 97 年アジア通貨危機。進出の急停止。2 年間のさすらい。
- 6 98 年から 2000 年。日本の金融機関の危機。2001 年から東アジア経済の拡大。アセアンへの中小企業の進出加速。次に中国への移転加速。2008 年まで。リーマンショック。大震災。



中沢孝夫福井県立大学教授による講義

第 12 回は日東製網(株)経営管理本部の杉森和夫本部長から「無結節網のトップメーカー」の会社概要説明などが行われました。主な内容は、会社概要、製網工程、世界の無結節組網機の分布状況、無結節網のメリット、特徴の紹介、製品紹介、経営理念、タイ国設立会社概要、進出経緯と多岐にわたるものでした。



日東製網(株)杉森本部長による講義風景

第 13 回は、中沢孝夫福井県立大学教授による「地域企業のグローバル化 海外体験の重要性」と題する講義でした。内容は以下のような論点が展開されました。

- 1 大切なことは「知らない場所に飛び込む勇気」。自分が何を伝えたいのか。伝えることがあるのか。日本のことをどれだけ知っているのか。日本の職場・仕事をどれだけ知っているのか。「語学」の知識は後のこと。まず行ってみる。若者の外国拒否は本当か。「異文化コミュニケーション」とはどういうことか。
- 2 例えば「製造業」と「サービス業」と「流通小売り」の仕事のあり方を考えてみる。
- 3 「働く」とはどういうことか。就職活動に必要なこととはなにか。「コミュニケーション能力」とはどういうことか。「こいつと一緒に働きたい」と思われることが「カギ」である。
- 4 「国際化」と「グローバル化」「外国から受け入れること」と、「積極的に出ていくこと」。外国から人を受け入れない排他的な日本。



中沢孝夫福井県立大学教授による講義

第 14 回はケーススタディとして、ホーコス(株)唐木俊夫常務取締役による講義が行われました。主な内容は、会社概要、事業内容、グローバルネットワーク、タイ工場についてです。



ホーコス(株)唐木俊夫常務取締役

受講者インタビュー

尾道市立大学 経済情報学部経済情報学科

2年 松下 留奈さん

大学生と社会人が、一緒に受講していたこの講義は、自分の視野を大きく広げてくれました。私は、実際に海外展開をしていらっしゃる企業のお話を聞き、「まず必要なのは、現地に飛び込むことの勇気」など、英語などの知識だけではいけないということがわかりました。それと同時に、これらの企業が求めている人材を知ることができ、就職活動の際の参考にもなったと思います。このたびの講義を活かして、国際経営への理解をより深めていきたいと思っています。



福山市立大学

小松侑貴君

『私は、福山市立大学都市経営学部 2 年生です。2 年もしないうちに就活が始まりますが、それに備えて企業の中核の方のお話が聞けることが参加の理由です。また、グローバルの視点からのお話は、これからの新しい時代に適していると思いました』

中村拓弥君

『私は、福山市立大学都市経営学部 2 年生です。参加理由は、日本の産業の空洞化と企業の海外進出に関心があったことです。日本国内の企業ではどんなことが起きているのか、進出先の企業はどのようにしているのか、とても参考になっています』



向かって左が中村君、右が小松君です。